

親が子どものためにできることって何だろうか？

# 未来を生き抜くために 今、子どもに必要な人間力

最近注目されている「非認知能力」。

実はこの能力が、未来を生き抜くために大切なことがわかってきています。教育心理学の観点から「人間力」について白川さんに教えてもらいました。

人間力があれば  
A-Iに思考を奪われません

「これからの子どもに必要なのは、知識の詰めこみよりも、自分で思考できる力、挫折しても立ち直る力などの、いわゆる『生きる力』です。『人間力』といってもさまざま

な解釈がありますが、私はこの『生きる力』こそが、人間力だと考えています」と白川さん。でも、い

くら人間力があっても、A-Iの発達によって、人間の仕事が奪われるという心配も。

「A-Iは人間の生活を豊かにするためのものであり、あくまで人間

は使う側です。『どうすればA-Iに負けないか』ではなく、『A-Iなどを活用し、みんなが豊かでよりよい世の中にするためにはどうしたらよいか』と考える発想こそが、人間力だと思います。そんな人がたくさんいたら、きっと未来は明るいですね」（白川さん）

将来成功するための  
必須スキル、非認知能力

学力やIQなど数値で評価できる「認知能力」に対し、数値化できない気質や性格的な特徴を「非認知能力」といいます。具体的には前向きな思考力、チームワーク力、克服力などのことで、これらは幼児期に育つといわれています。非認知能力は、将来の学歴・年収・雇用などに大きく影響を及ぼすということを、ノーベル経済学賞を受賞したジェームズ・ヘックマン氏が研究により証明しました。これにより幼児教育が世界的に重要視され、日本でも幼児教育の無償化が実施された経緯も。最近では心理学者のアンジェラ・リー・ダックワース氏の「グリット（やり抜く力）」という言葉も登場し、非認知能力は成功の必須条件として世界で注目されています。



○ 教えてくれたのは…

白川佳子さん

共立女子大学家政学部児童学科教授。専門は教育心理学。幼児期の文字環境と児童期の読み書きリテラシーの関連、保育者のコミュニケーションスキルの向上について研究。大学内の子育て広場「はるにれ」の運営にも携わる。

成長のステップ



幼児教育3つの柱

- 知識および技能の基礎
- 思考力、判断力、表現力等の基礎
- 学びに向かう力、人間性等

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領より

【前向きな思考力】



- ◎自尊心
- ◎楽観性
- ◎自信

前向きに物事をとらえ、思考する力。何かをするとき、自分とは異なる他者の考えに気づいたり、ときには考え直したりしながら、自分の考えをよりよいものにしていくことができます。そうすることで、みずからの健康で安全な生活を手に入れることができます。

【チームワーク力】



- ◎社交性
- ◎敬意
- ◎思いやり

目的の実現に向かって、他人と協力する力。家族や友達など身近な人と関わりながら、お互いの思いや考えを共有し、考えたり、工夫したりして、取り組むことができます。自分が役に立つ喜びを感じることで、より人とのつながりを意識できるようになります。

【克服する力】



- ◎忍耐力
- ◎自己抑制力
- ◎目標への情熱

やるべきことを自覚し、やり抜く力。自分の気持ちをコントロールしながら、壁にあたってもあきらめずに頑張ることができます。自分で実行できたことに達成感を味わうことで、さまざまな局面においてくじけずに行動できるようになります。



幼児期に育まれた非認知能力は将来の学力の伸びにも影響する

非認知能力は、国が目標としている幼児教育における3つの柱のひとつ、「学びに向かう力、人間性等」と合致します。

「たとえ勉強ができて、いい大学を出たとしても、学びに向かう力が不足していると、社会的成功や経済的安定にはつながらないことがわかってきています」（白川さん）

非認知能力は以前から幼児教育で重視されてきましたが、最近さらに注目されるようになりました。「学びに向かう力が育った子どもは、勉強などで結果が出なかったとしても、学びつづけたい気持ちを失いません。そのうち好きなことに出会ったときに力を出して、スキルを高めていくことができます。大人になっても学びつづける人こそが、本当に豊かな人生を送っているのではないのでしょうか」

## 子どもが好奇心にそって遊ぶのを見守る

子どもは遊びに集中するなかで、文字や数量・図形に気づいたり、感覚を磨きます。子どもが自分から興味をもった遊びに、主体的に取り組ませましょう。絵を描く機会を与えたときに、描かずに絵を描く道具で遊んだりした場合も、「試行錯誤しながら見立て遊びをしているのかも」とおおらかに見守って。見守ることは、「集中力がある」「研究熱心」など、その子の長所を見つけるチャンスでもあります。



### やりがちだけど避けたいこと

#### 汚しちゃダメ！など遊びを制限する

「服を汚しちゃダメ」「友達と同じようにしなさい」など行動を制限しすぎると、子どもは興味があることも「怒られるからやめよう」と感じ、何が好きかわからなくなってしまう。そのうち、指示されたことしかやれなくなる。

## 結果ではなく過程をほめる

「できたね」と結果だけをほめられると、子どもはできないときに「自分はダメだ」と感じてしまいます。「何回も練習したね」「できるように工夫したね」など頑張った過程をほめると、子どもは親に見守られている安心感が得られます。簡単にできたことより、頑張って克服したことのほうが記憶に深く刻まれ、次の困難があったときの力にもなります。うまくいかないときほどほめてあげましょう。



### やりがちだけど避けたいこと

#### きょうだいやよその子とくらべる

「お兄ちゃんはもっと上手」「~ちゃんは10回できるよ」などきょうだいや友達とくらべても劣等感を与えてしまうだけ。その子なりの努力や、できたことをほめたほうが、子どもは認められたと感じてより頑張れる。

## ダダをこねるのは甘えたいだけと理解する

着がえや食事など、普段できることをできないと言ってやらなかったり、ダダをこねたりする原因は、甘えたいだけという場合も。まずは気持ちを受け止め、抱きしめるなどして安心させてあげると、できることもあります。もしできなくても「本当はできると思うんだけどなー。今日はここまで手伝ってあげるから、あとは自分でやろうね」と声をかけ、一部だけ手伝うなど柔軟に対応しましょう。



### やりがちだけど避けたいこと

#### わがままは許さない！と厳しくする

気持ちを無視して叱ったり、ムリにやらせたりしていると、子どもは自分が大切にされていないと感じ、自信をなくす。親子関係が悪くなることもあるので、子どもの気持ちを無視したゆきすぎた注意は避けよう。

# 親がでてること 非認知能力を育むために

親の見守りやサポートで段階的に伸びる！

大事なのは、親が選んだことを頑張らせるのではなく、子どもが好きなことに没頭するのを応援すること。そうすることで、非認知能力が育まれることがわかってきています。伸びようとする芽を摘まないよう、親が子どもの気持ちをキャッチしてあげられるといいですね。

## 保育者と親しくなって 子どもを多角的に見る

子どもの悩みは、保育のプロである保育者に相談することで解決方法が見えることもあります。保育園や幼稚園では自立心、道徳性などといった目標を立てて日々保育を行っていて、子どもが困った行動をしたときの対策の引き出しも多いので、ひとりで悩まず打ち明けてみましょう。保育者も子どもの家庭でのようすを知りたいし、園でのようすを伝えたいもの。送り迎えのタイミングなどで、話してみてもいい。



### やりがちだけど 避けたいこと

#### 子どものことは親が解決すべきと思う

虐待をする親のなかには、人に頼れず引きこもりになっている人も。祖父母など子育てに人手が多かった昔と違い、核家族が多い現代は、子どもを家庭だけで育てるのは難しい。困ったときは保育園や幼稚園を訪ねてみよう。

## 刺激の宝庫！ 自然と ふれあう機会をつくる

自然は大きな教材。葉っぱやどんぐり、花などさまざまなものの音や形、色、におい、感触を味わったり、数や言葉で表現したりなどの体験ができます。自然にふれることで、身近な生き物に関心をもったり、命を大切にしようという気持ちも育ちます。保育園や幼稚園でも自然遊びはとり入れているので、家庭では公園での散歩や虫捕り、家で植物を育てるなど、日常的に気負わずできることでかまいません。



### やりがちだけど 避けたいこと

#### テレビや動画を見せっぱなしにする

動画やスマホなどは、与えられた情報を一方的に受け取るだけで、子どもは思考するきっかけを得られない。一緒に見て会話のきっかけにすればよいが、ひとりで長時間見せっぱなしにするのは無自覚な育児放棄といえる。

おもちゃの取り合いなど子どもどうしの

## トラブルも成長の 機会にする

友達やきょうだいのトラブルは、人間力を育むいい機会。問題を克服した経験が豊かなほど、成長してから自分で解決できるようになります。小さい子ほど援助が必要なおもちゃは多いですが、サポートしつつ見守って。



5歳～

### 考えさせてみる

相手の気持ちが考えられるようになり、言葉の表現もふえてくる。なるべく子どもたちで解決できるように「たたかれたらどう思う？」「どうしたら仲直りできる？」などと考えさせてみよう。

4歳～

### アドバイスして導く

個人差が大きく、子どもたちだけで解決できる場合もあるが、まだ言葉で伝えることが苦手な子ども。「〇回乗ったら交代しようか」「ほかのおもちゃもあるよ」など、アドバイスをしてあげよう。

3歳～

### 仲介して解決

自我が出てくるが、相手の気持ちまではまだ考えられない。そのため、誤ってぶつかったなどのことでも怒ってけんかになりがち。「わざとじゃなかったよね」など、相手の言い分も仲介してあげて。

0～2歳

### 代弁して解決

言葉で表現できないため、思いをかなえるために友達をたたいたりすることも多い。「～ちゃんも欲しかったね」「取られていやだったね」などと代弁してあげることで、子どもは気持ちが回復する。